

<<まとめのプログラム>>

5-5 生きものと佐渡の伝統的な仕事、暮らしのつながりを感じるプログラム

5-1から5-4まで共通して行い、子どもたちが五感で体験したことを、少しだけまとめて記憶に残すとともに、受け入れ側との「つながり」を残すためのプログラムです。特に自然と人の関わりに重点をおきます。

■宝物を探そう

宿泊し、体験した様々な仕事、暮らし、生きもの、そこで出会った人、道具、きまり、遊び、景色、びっくりしたこと、知らない言葉などから特に印象に残ったものを「宝物」として探していきます。

宿泊するグループごとに1台のデジタルカメラを渡し、ひとりひとりが「びっくりした」「感動した」「楽しかった」「すごかった」「おいしかった」「気持ちよかった」「知らなかった」「はじめてだった」コトやモノや動きなどを写真に撮ります。

それを、1つの写真ごとに1枚の「宝物探しカード」に貼り付け、自分がどうして「びっくり」したのかを書きます。

宿泊を受け入れた側の人に、そのコトやモノについての話を聞き、そのことを書き写します。

そのカードを、グループで集めて、自分たちで順番やお話しをまとめ、宿泊を受け入れた人達に発表します。

宿泊した場所でグループごとに発表するだけでなく、最後のまとめのときに、トキ交流会館などで、他の場所に宿泊したグループやインストラクター、受け入れた地元の人達の前での発表会を行います。

この作業は、「環境省里地里山保全再生の手引き」における地元学調査手法を子どもの体験学習向けに再プログラムしたものです。

授業として知識を得ることよりも、自分の五感で体験したことを「言葉」で言い表し、受け入れた側の人達とのコミュニケーションを通して、自然豊かな場所やそこに暮らす人達、そこにいる生きものや自然とのつながりが持てるという気持ちを醸成するために行います。

■その他のプログラム

3-9で紹介した、「小さな博物館づくり」を合わせて行っても効果的です。

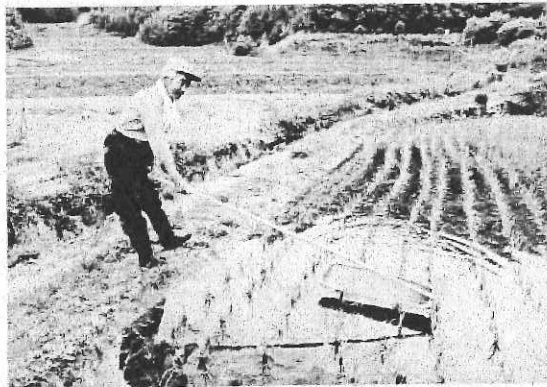
とくに、生きもの調べを行った場合には、「小さな博物館づくり」で生態系のつながりやしぐみを感じ取ることができます。

タイトル: しろはきかご

キーワード: 稲虫 無農薬

地区: 野浦

平成 12年5月20日 撮影



目の細かいザルに長い柄がついた不思議な形。一畝の表面をサウとほくように使う。初めは何をしているか分からなかった。現役の道具。竹でできている。

見つけた時の様子や、モノの説明を感じたこと、自分の言葉で書きます。

それについて、地元の人に聞いたことを、地元の人言葉で書きます。

稲の苗についた、泥(泥)がついた虫を取る。稲が水面から20cmくらいになると、泥がついた虫が葉につき、芯を残して食べてしまう。このカゴではくと、その虫が取れる。農薬よりは手間がかかるが、それほどでもない。取った虫は川へ流す。無農薬で米を作るには必要だ。

